

(見本3)

事業計画書

申請者名 (法人の名称又は個人 事業主の代表者の氏名)	創作レストラン ABC
利用 A I 等 の種類	(事業の種類番号に○を付けてください。) 1 画像認識 2 音声認識 3 自然言語処理 4 予測・異常検知 5 作業自動化 6 生成 A I 7 その他 ()
事業の内容	(1) 申請者の現状と課題 (A I ツールを活用したデジタル化の背景 (動機)) (申請者の事業概要 (会社概要パンフの添付でも可)、業界動向、課題等を記載)) 大型の飲食店を経営しており、ホールスタッフが料理の配膳と下膳に追われ、顧客へのきめ 細かな接客サービスが十分にできていない。また、慢性的な人手不足により、混雑時の提供 遅延が発生しており、顧客満足度の低下が課題となっている。 (2) A I ツールの利活用の目的とその内容 (どのような業務に A I ツールの利活用を行うのか、できるだけ具体的に記載) 画像認識 AI を搭載した自動配膳ロボットを導入する。AI が店舗内の形状や障害物、人をリ アルタイムで識別・判断し、最適なルートで配膳・下膳を自動で行う。これにより、スタッフの 歩行距離を削減し、空いた時間を接客や追加注文の提案に充て、サービスの質を向上させ る。 (3) A I ツール利用に伴う機器の構成内容 (どのような機器構成で A I ツールを利用するのか、できるだけ具体的に記載) AI 機能と連動して作動する機械装置として、配膳ロボット 1 台を導入する。ロボットの運行 設定および管理のため、既存の店舗 Wi-Fi 環境を利用する。
事業の効果	(本事業の展開計画や期待される効果など、可能ならば定量的な目標数値と併せて記載) 配膳・下膳業務の約 60%を自動化し、ピーク時のスタッフ不足を解消する。接客時間の増加 によりデザート等のプラスアルファの注文を促進し、売上 5%アップを目指す。また、従業員の 身体的負担を軽減し、離職率の低下に繋げる。

